

富山大学 学報

第224号

目	次
関係法令..... 2	人事異動.....12
諸会議..... 2	学内諸報.....12
学 事..... 4	海外渡航者.....12
学位取得者..... 4	寄稿 <オークリッジ国立研究所を訪れて>13
昭和58年度大学入学者選抜共通第1次学力試験受 験案内の交付..... 5	保健管理センターだより <心のトラブル(その1)>15
昭和58年度富山大学入学者選抜に関する要項を 発 表..... 6	職 員 消 息.....16
	主 要 行 事.....17

関 係 法 令

(官報掲
載月日)**省 令**

- 国家公務員共済組合法施行規則の一部を改正する省令（大蔵33） 6・2
- 昭和42年度以後における国家公務員共済組合等からの年金の額の改定に関する法律第1条の6に規定する仮定俸給の額等を定める省令の一部を改正する省令（大蔵34） 6・2

告 示

- 昭和57年度科学研究費補助金（特別研究推進研究）の計画調書の提出期間を定める件（文部94） 6・3

諸 会 議

富山大学構内交通対策委員会（6月2日）

（審議事項）

- (1)交通対策委員長不在中における審議について

昭和57年度第1回学寮補導委員会（6月8日）

（審議事項）

- (1)学寮の諸問題について

昭和57年度第2回学園ニュース編集委員会（6月10日）

（審議事項）

- (1)第39号学園ニュースの編集について

昭和57年度第3回事務協議会（6月11日）

（審議事項）

- (1)当面の諸問題について

昭和57年度第2回入学者選抜方法研究委員会（6月15日）

（報告事項）

- (1)昭和60年度以降の共通第1次学力試験における高等学校の「職業科」に係る出題科目についてのアンケート調査について

(審議事項)

- (1)昭和60年度以降入試教科・科目検討専門委員会の設置について（継続）

昭和57年度第2回入学試験管理委員会（6月15日）**(審議事項)**

- (1)昭和58年度富山大学入学者選抜方法等並びに第2次の学力検査実施教科・科目について
(2)昭和58年度富山大学入学者選抜試験の選考基準について
(3)昭和58年度富山大学入学者選抜に関する要項について
(4)昭和58年度入学試験問題作成主任委員及び同整理委員について

昭和57年度第1回文化部会（6月17日）**(審議事項)**

- (1)第32回北陸三県大学学生交歓芸術祭について

昭和57年度第2回大学院委員会（6月18日）**(審議事項)**

- (1)昭和58年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）学生募集要項について

昭和57年度第4回評議会（6月18日）**(報告事項)**

- (1)昭和58年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）学生募集要項について
(2)昭和58年度入学試験問題作成主任委員及び同整理委員について
(3)教官人事について（教育学部）
(4)学生の動向について

(審議事項)

- (1)昭和58年度概算要求について
(2)昭和57年度学内予算配分（案）について
(3)昭和58年度富山大学入学者選抜に関する要項について

昭和57年度第3回補導協議会（6月22日）**(報告事項)**

- (1)体育部会1号委員（部会長）について
(2)第32回北陸三県大学学生交歓芸術祭について
(3)日本育英会奨学生の推薦について

(審議事項)

- (1)大学祭における諸問題について

広報・教育小委員会（6月22日）**(審議事項)**

- (1)年報（第7号）の編集について

富山大学入学者選抜健康診断判定基準専門委員会（6月25日）**(審議事項)**

- (1)富山大学入学者選抜健康診断判定基準の改善について（継続審議）

富山大学構内交通対策委員会（6月25日）

（審議事項）

- (1)学長の諮問に対する答申案について

昭和57年度第2回学寮補導委員会（6月28日）

（審議事項）

- (1)学寮の諸問題について

昭和57年度第3回附属図書館商議会（6月29日）

（報告事項）

- (1)第29回国立大学図書館協議会総会について
(2)昭和57年度附属図書館運営費について
(3)附属図書館電算化委員会について

（審議事項）

- (1)雑誌製本について

昭和57年度第1回富山大学施設整備委員会（6月30日）

（審議事項）

- (1)昭和58年度国立学校施設整備費概算要求について

昭和57年度第1回将来計画委員会（6月30日）

（審議事項）

- (1)富山大学の将来計画について

昭和57年度春季全国国立大学教育学部長会議（6月3～4日）

（協議題）

- (1)教育学部長と附属学校の関係について

第33回全国国公立幼稚園長会総会・研究大会（6月18～19日）

（協議題）

- (1)幼児一人一人の健全な発達を助長するために幼稚園教育を充実しよう。

学 事

学 位 取 得 者

取得者 理学部 助手 高安 紀

取得学位 理学博士（大阪大学）

取得年月日 昭和57年6月16日

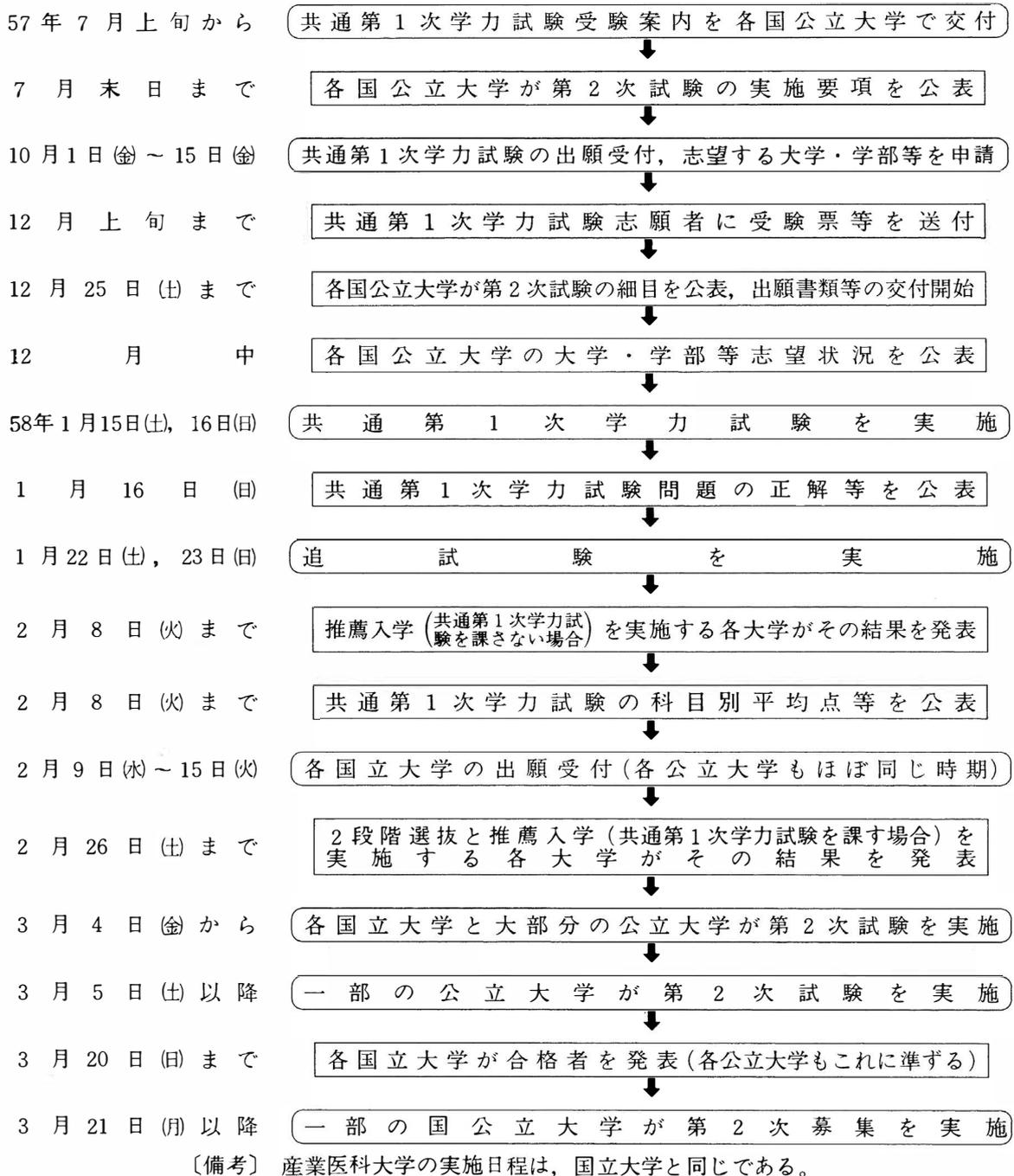
学位論文名 オートラジオグラフィ法による金属触媒の表面水素の反応性に関する研究

昭和58年度大学入学者選抜共通第1次学力試験受験案内の交付

昭和58年1月15日(土)、16日(日)の両日にわたって実施される昭和58年度大学入学者選抜共通第1次学力試験の受験案内が、7月1日(木)から交付されています。富山県内の分については、本学の学生部学生課で一括して交付することになっています。

なお、同試験に関する実施日程等は、次のとおりです。

昭和58年度国公立大学入学者選抜実施日程



〔備考〕 産業医科大学の実施日程は、国立大学と同じである。

昭和58年度富山大学入学者選抜に関する要項を発表

本学は、昭和58年度富山大学入学者選抜に関する要項を7月5日(月)に、次のとおり発表しました。

これによると、昭和57年度との主な相違点は、①入学者選抜方法については、経済学部で職業科卒業見込みの者を対象として募集人員の一部について推薦入学を実施することとしたこと。(別表I参照) ②学力検査実施教科・科目については、教育学部中学校教員養成課程・国語専攻は、数学ⅡBを廃止し国語(現代国語・古典Ⅰ乙)の1教科としたこと。経済学部で簿記会計Ⅰ・Ⅱを廃止し数学ⅡB、英語B及びドイツ語から1科目選択としたこと。工学部化学工学科の理科は、物理Ⅱ及び化学Ⅱから1科目選択としたこと。③配点については、教育学部中学校教員養成課程・国語専攻は、第2次の学力検査を1教科で400点としたこと。経済学部は、共通第1次学力試験を500点(各教科100点)とし、第2次の学力検査を300点としたこと。このほかは、昭和57年度と同様です。なお、第2次の学力検査等の日程、試験場及び出願手続等の細目を記載した学生募集要項については、本年12月上旬頃に発表する予定です。

昭和58年度富山大学入学者選抜に関する要項

1. 学部・学科等の内容及び入学定員

学 部	学 科・課 程	入学定員	専 攻 , 講 座 又 は 学 科 目	
人文学部	人 文 学 科	90	履 修 コ ー ス	哲学, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 人文地理学, 文化人類学, 言語学, 比較文化
	語 学 文 学 科	80		国語国文学, 朝鮮語朝鮮文学, 中国語中国文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, ロシア語ロ シア文学, 比較文学
教育学部	小学校教員養成課程	140	専 攻 教 科	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 図画工作, 体育, 家庭, 教育学, 教育心理学
	中学校教員養成課程	50		国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 技術, 英語
	養護学校教員養成課程	20		特殊教育
	幼稚園教員養成課程	30		幼稚園教育
経済学部	経 済 学 科	120		経済原論第1, 経済原論第2, 経済史, 経済政策, 金融 論, 財政学, 統計学, 経済地理学, 社会学, 経営学, 流 通論, 財務会計, 管理会計, 経営工学, 経営環境論, 国 際経営論, 人事管理論, 経営実務論, 基礎法, 財産法, 企業関係法, 倒産関係法, 社会法, 国際取引法
	経 営 学 科	120		
	経 営 法 学 科	60		
	数 学 科	40		代数学及び幾何学, 解析学, 数理統計学, 応用解析学及 び電子計算機論

学 部	学 科・課 程	入学定員	専 攻 , 講 座 又 は 学 科 目
理 学 部	物 理 学 科	40	固体物理学, 量子物理学, 結晶物理学, 電波物理学, レーザー物理学
	化 学 科	40	物理化学, 構造化学, 分析化学, 有機化学, 天然物化学
	生 物 学 科	30	形態学, 生理学, 細胞生物学, 環境生物学
	地 球 科 学 科	30	地殻構造学, 地殻進化学, 陸水学, 雪氷学
工 学 部	電 気 工 学 科	50	電気理論, 電気機器学, 電力工学, 通信工学, 制御工学
	工 業 化 学 科	45	有機工業化学, 有機合成化学, 無機工業化学, 応用物理化学, 環境化学
	金 属 工 学 科	40	金属材料学, 金属加工学, 鉄冶金学, 非鉄冶金学
	機 械 工 学 科	50	材料力学, 機械力学, 流体工学, 熱工学, 動力熱工学
	生 産 機 械 工 学 科	40	切削加工, 工業計測, 塑性加工, 制御機器
	化 学 工 学 科	40	反応工学, 拡散単位操作, 機械的単位操作, 輸送現象
	電 子 工 学 科	40	基礎電子工学, 応用電子工学, 電子素子工学, 電子回路工学
	共 通 講 座	—	応用物理学, 応用数学, 情報処理
合 計		1,195	

2. 入学者選抜方法等並びに第2次の学力検査実施教科・科目

別表I・IIのとおり

3. 学生募集要項(細目)の発表

募集人員, 出願期日, 第2次の学力検査等の実施期日, 試験場等の細目を記載した学生募集要項は, 12月上旬頃に発表の予定である。

4. 共通第1次学力試験及び第2次の学力検査の配点

学 部	共通第1次学力試験	第2次の学力検査	合 計
人 文 学 部	500点	400点	900点
経 済 学 部	(各教科 100点)	300点	800点
教 育 学 部	1,000点	400点	1,400点
理 学 部	(各教科 200点)		
工 学 部			

備考 1. 第2次の学力検査の各科目ごとの配点は, それぞれ200点(経済学部は300点)である。ただし, 国語については, 現代国語及び古典I乙併せて200点(教育学部中学校教員養成課程の国語専攻は400点), 実技については, 400点である。

2. 第2次の学力検査の受験科目については, 別表IIを参照。

別表 I

昭和58年度 富山大学

学部・学科名	選抜方法等 第2次の学力検査を課する	第2次の学力検査等						推 薦		
		実技検査等			2段階選抜			入学定員の一部分について、出身学校長学力検査を免除し調査書を主な資料		実 実技検査を課する
		実技検査を課する	面接を行う	小論文を課する	主として、調査書の内容と共通試験の成績により第1段階の選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1段階の選抜による合格者数 定員に対する倍率 その他		第2次学力検査を免除し、共通第1次学力試験を課する	第2次学力検査を免除し、共通第1次学力試験をも免除する	
人文学部 教育学部 (中学校教員養成課程の音楽、美術、保健体育専攻を除く)	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
理学部 工学部										
教育学部 (中学校教員養成課程の音楽、美術、保健体育専攻)	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
経済学部	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×

入学者選抜方法等

入 学			第 2 次 募 集						備 考
の推薦に基づき、 として判定する			推薦入学 募集人員 (又は比率)	入学定員の一部分についてあらかじめこれを留保し、これについて第2次募集を行う				入学定員に欠員等が生じた場合に第2次募集を行う	
技 検 査 等				第2次の 学力検査 を課する	実 技 検 査 等				
面 接 を 行 う	小 論 文 を 課 す る	そ の 他	実 技 検 査 を 課 す る		面 接 を 行 う	小 論 文 を 課 す る			
×	×	×	×	×	×	×	×	×	1. 調査書に㊤標示を希望する。 (入学者選抜方法の研究資料として利用するため。) 2. 教育学部中学校教員養成課程の音楽、美術及び保健体育専攻志願者で、当該専攻以外の課程又は専攻を第2志望とする場合は、実技検査のほかに学力検査を課する。 3. 教育学部中学校教員養成課程の音楽、美術及び保健体育専攻を第2志望とする場合は、学力検査のほかに実技検査を課する。 4. 経済学部の推薦入学については、高等学校の専門教育を主とする学科(いわゆる職業科)を昭和58年3月卒業見込みの者の内から選抜する。 なお、小論文については、論文作成のための資料の一部は英文で提示する。 また、推薦入学の不合格者は、一般の入学志願者として第2次の学力検査を受けることができる。ただし、そのためには、あらかじめ、共通第1次学力試験を受験しておくこと。詳細については、12月上旬頃発表予定の学生募集要項を参照のこと。
×	×	×	×	×	×	×	×	×	
○	○	×	15名以内	×	×	×	×	×	

別表II

昭和58年度 富山大学入学者選抜

出題教科・科目名		(学部・専攻) 科目数等		教 育 学 部												経済学部			
				人文学部				小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 (社会, 家庭, 技術, 英語専攻) 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程		中学校 教員 養成課程 (国語専攻)		中学校 教員 養成課程 (数学専攻)		中学校 教員 養成課程 (理科専攻)				中学校 教員 養成課程 (音楽, 美術, 保健 体育専攻)	
				出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数			出題科目	受験科目数
国 語	現代国語	◎	2	◎	2	◎	2												
	古典 I 乙	◎		◎		◎													
数 学	数学 II B			◎	1			◎	2	◎	1				○				
	数 学 III							◎											
理 科	物 理 II									○	1								
	化 学 II								○										
	生 物 II								○										
	地 学 II								○										
外 国 語	英 語 B	○	1												○				
	ドイツ語	○														○			
芸 術 保 健 体 育	音楽実技											◎	1 志望 専攻 の1 科目						
	美術実技											◎							
	体育実技											◎							
合 計		4	3	3	3	2	2	2	2	5	2	1	1	3	1				

備考 ◎は必ず受験しなければならない科目を, ○は選択科目を示す

第2次の学力検査実施教科・科目

理 学 部										工 学 部				摘 要
数 学 科		物理学科		化 学 科		生物学科		地 球 科 学 科		電気工学科 機械工学科 生産機械 工学科 電子工学科	工業化学科 金属工学科 化学工学科	出題科目	受験科目数	
出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	
◎	2	◎	1	◎	1	◎	1	◎	1	◎	1	◎	1	
◎														
		◎						○		◎		○		
			1	◎	1		1	○			1	○	1	
						◎								
2	2	2	2	2	2	2	2	4	2	2	2	3	2	

1. 国語の現代国語と古典Ⅰ乙は同一時間内に解答させる。

2. 教育学部志願者で、受験科目の異なる課程又は専攻を第2志望とする場合は、第1志望の受験科目のほかに第2志望の受験科目を受験しなければならない。ただし、数学及び理科専攻相互間並びに音楽、美術及び保健体育専攻相互間の第2志望はできない。

3. 工学部志願者について

① 工業化学科、金属工学科及び化学工学科を第1志望とする者のうち「化学Ⅱ」で受験する者には、3学科間でのみ第2志望を認める。

② 「物理Ⅱ」で受験する者には、全学科にわたり第2志望を認める。

人事異動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	57. 6. 7	石 黒 世志子		事務補佐員（附属図書館）	富山大学長
	57. 6. 16	屋 敷 平 州		教授（教育学部附属教育実践研究指導センター）	文部大臣
昇 任	57. 7. 1	渡 辺 一 郎	助教授（教育学部）	〃（教育学部）	〃
	〃	田 中 晋	〃（ 〃 ）	〃（ 〃 ）	〃
	〃	浅 沼 照 雄	講 師（ 〃 ）	助教授（ 〃 ）	〃
	〃	村 上 宣 寛	〃（ 〃 ）	〃（ 〃 ）	〃
転 任	〃	向 雅 己	文部事務官 （富山工業高等専門学校庶務課）	文部事務官（厚生課）	富山大学長
配 置 換	〃	山 本 悦 子	〃（厚生課）	〃（庶務部庶務課）	〃
辞 職	57. 6. 30	山 田 明 美	事務補佐員（庶務部庶務課）	辞職を承認	〃

学 内 諸 報

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	官 職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外 国 出 張	理 学 部	助 手	笹 山 雄 一	ミクロネシア連邦 マーシャル諸島	ミクロネシア海域における黒潮源流系海産動物相の研究調査のため	57. 6. 23
						57. 8. 17
海外研修旅行	経済学部	助教授	武 井 勲	アメリカ合衆国 メキシコ	第75回BOMA総会出席団参加及びリスク・マネジメントの研究調査のため	57. 6. 16 57. 7. 6

寄 稿

＜オークリッジ国立研究所を訪れて＞

トリチウム科学センター 松山 政夫

私がオークリッジに着いたのは3月1日で、異常気象の余波が続いており、まだかなり肌寒い感じであった。オークリッジはテネシー州のノックスビル（5月1日より万国博が開催されている町）から西の方へ約30kmほど行ったところにある人口約3万人位の小さな町である。緯度でみると日本の京都位の位置になる。私が渡米するのは初めての経験であり、当初一抹の不安があった。特に言葉の問題は最も心配の種であった。

アメリカでの第1日目の夜はノックスビルの空港の近くにあるホテルで過した。そして翌朝、7時頃突然電話が鳴り寝ぼけ眼で受話器を取ると非常にりゅうちような英語が聞こえてきた。時差ぼけで頭の中はまだ霧がかかったような感じになっている上に、昨日まで日本語で生活していた者に突然生の英語が飛び込んで来たため一瞬ぼう然としていた。電話は、今回の渡米に先立って種々と手紙のやりとりをしていた Mr. L. M. Ferris からで、「あなたを8時にホテルまで迎えに行く」ということであった。受話器を降ろしてから自分には幾らかの不安が残った、というのは迎えに来てくれる Ferris の顔も知らないし、ほんとうに8時にホテルに来ると言ったのかどうか若干心配であった。ホテルの食堂で朝食を済ませ、チェックアウトをしてロビーで待っていると1人の背の高い人が入ってきた。時計をみるとちょうど8時である。彼は私の方を見るやいなや笑顔を見せながら電話で聞いたのと同じよう

な調子でゆっくりと話しかけてきた。なぜかこの時には自分が日本人で彼がアメリカ人であるという意識は既に頭の中から消えており、そのためか彼の言うままに車の方に向い荷物を乗せて研究所へ向った。

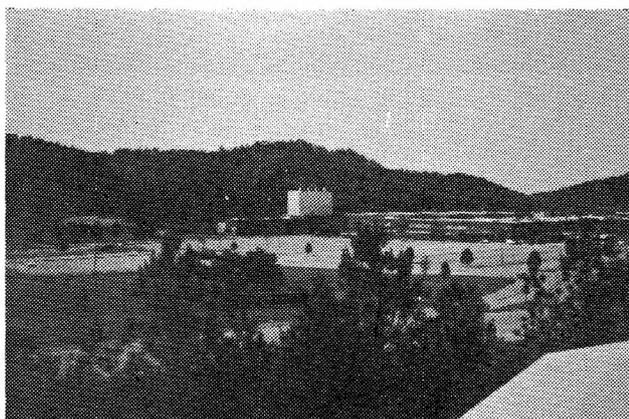
ホテルから研究所までは約1時間ほどかかり、天気は快晴で非常に快的なドライブであった。車の中で彼は種々とまわりの景色について説明してくれたが何を言っているのかよく分からず、ただ合いづちを打ちながら初めて見る景色に見とれているだけであった。

研究所はオークリッジの町から約10kmほど離れた林の中にあり、研究所の前まで着くと非常に広い駐車場の一角に車を止め正門まで歩いて行った。正門には2人のがっしりした体つきの黒人の警備員がおり、ここを通りぬけて最初に案内されたところは、これから毎日の出入りを保証してくれる入構手続きを行う部屋であった。1時間ほどして出来上がった身分証明書は顔写真入りの名札であった。Ferris からこの名札は絶対になくさないように、また研究所に来る時には必ず身に付けているようにと強く言われた。

午後から、彼の部屋に行きこれからの事について種々と話しを聞き、夕方近くオークリッジのホテルまで送ってもらい、明朝は Dr. Bunberger という人が pick up してくれるということを教えられて彼と別れた。その日はさすがに疲れはてホテルに着いたあとと食事をする元気もなく2時間ほど眠ってしまった。

翌日からの大きな問題はアパートと車探しであった。この時は特にオークリッジにいる日本人の方々に種々と御世話になったが、この町には約10家族位の日本人の方が住んでおられた。アパートと車が手に入ったのはアメリカに着いて4日目であった。オークリッジの町には市内バス等の交通機関がないために必然的に乗用車が重要な交通手段となる。そのために、かなり高齢の人から若い人まで全員が車で動き回ることになり、しばしば若者のみならず老人の運転による交通事故が発生していた。

テネシー州はミシシッピー川の上流に位置し、オー



(オークリッジ国立研究所)



(クリンチ川につくられたノリスダム)

クリッジにはこの川に注ぐ大きな支流としてテネシー川及びクリンチ川が流れている。これらの川には多くのダムが作られており、テネシー州の電力の一部をまかなっている。テネシー州としては、このような水力発電の外にも多くの火力や原子力発電所を有しており、他の州に較べて電気料金が非常に安いとのことであった。また水力発電所のまわりは非常にきれいに整地されていて公園のようになっており、市民の憩いの場所のひとつとして解放されていた。

オークリッジ国立研究所は、私が毎日通っていたX-10の外にY-12、K-25（それぞれは約10km位離れている）から成っており、X-10は化学、物理、化学工学、原子核物理部門等で構成されている。Ferrisの説明によれば、X-10だけで研究者、技術者、事務官及び作業員が約5千人いるということであった。つまりオークリッジの人達の大部分はこれらの研究所に勤務しており、他の町に較べ就業率が高く失業者がほとんどいないために非常に安全な町であるということであった。実際に新聞を見ても交通事故か火事位のもので、盗難等の事件は私の滞在中ほとんどなかった。また車を青空駐車していても鍵をかける必要もない位であった。

X-10の研究所で働いている人達の職名は先ほど述

べた4種類で、私の滞在中最もお世話になった Mr. Ferris は Chemistry Division 中の Inorganic, Materials and Electrochemical Section の Head で、この Section の Management が仕事であった。元々彼は研究者であったが、Managerの方が給料が高いということで10年位前に替わったのだそうである。研究所の中でこれらの人々の仕事を見ていると、自分の仕事の領域が非常にはっきりしており、「分業」ということが明確になっていて他人の領域には絶対に踏み込まないようにしている様であった。この点は日本の場合とかなり異なる感じがした。更に不思議に感じたのは、研究者のみならず他の技術者や事務官の人達がよく休暇をとることであった。このように休んでいてよくも全体がうまく動くものだと思った。また日本的な事務室というものはなく、事務室らしき小さな部屋には1人か2人の女性がタイプライターの前に座っているだけで、日本の大学や会社等でみられる総務とか経理の多くの人達はいったいどこにいるのか最後まで分からなかった。

私の10週間の出張も終わってみると「光陰矢の如し」のごとくまたたくまに終わってしまい、今回の滞在で今もって強く印象に残っているのはオークリッジの“自然の美しさ”である。誇張するならば、町全体が森の中にあり人々は毎日鳥や動物とともに生活しているような感じを受けたことである。



(春を告げる dog wood)

- ▶ 筆者は、日本学術振興会日米科学技術協力事業核融合分野派遣研究者として、昭和57年3月1日から5月9日までの約2か月間アメリカ合衆国のオークリッジ国立研究所に外国出張されたので、特に寄稿を御依頼したものです。

保健管理センターだより

心のトラブル（その1）

~~~~青年の悩み~~~~

高校、大学と青春の真ただ中にいる彼らは、日常の学生生活において何を考え、何を目標にし、何に悩んでいるのであろうか。

学生相談室に来るのは、何らかの意味で現状に不満をもつ学生である。その不満もそれぞれに事情が違っているから一概にいえないが、そこには現代の世相が顔をのぞかせているように思われる。その一つは、そこに高校が、大学があるから、みんなが行くから、親が勧めるからといった無目的からくるのである。もちろん10代で自分のことがすべて分かっている道理はなく、迷いをもつのは自然の姿である。

青年心理学者のシュプランガーは、「青年ほど深い孤独の中に接近と理解とを渴望しているものはない。青年ほど、はるか遠いところに立って叫んでいるものはない~~~~」と述べているが、正にそのとおりである。悩みをもたない青年はいない。彼らの悩みに一々、大人が手を貸す必要はない。悩みによって彼ら自身が成長するのであると考えられる。しかし、彼らの悩みを温かく受容してやることもまた大切であると考えられる。

過日、高校生（富山、石川県5校 1,367名）と大学生（富山大学 220名）を対象にして行った生活意識調査結果の一部を紹介しながら文をすすめてみよう。

悩みごとの全くないのは、高校生で10%、大学生では12%、多少悩んでいる、ひどく悩んでいる、要するに何らかのかたちで悩んでいる者は、高校生89%、大学生86%と今回の調査結果から90%近くの学生が悩んでいることになる。特に、高校、大学共に課外活動（同好会も含む）を何らかの理由によってやめた途中群に、ひどく悩んでいる学生が多いことが分かった。

しかし一方、悩みごとの全くない高校生10%、大学生12%については、それなりに何らかの問題があるのではなかろうか。

「悩む必然性をもちながら 悩まない青年がいる」という事実から、悩まない青年に ①無自覚型 ②逃避型 ③価値否定型 etc のタイプがあると考えられる。

悩みの内容は、高校生では（%の多い順に）①成績

関係 ②将来（進学、就職関係） ③友人関係 ④自分の性格 ⑤物事に熱中できない etc。 大学生では ①将来（進学、就職関係） ②成績関係 ③自分の性格 ④友人関係 ⑤人生、思想上の問題、そしてサークル問題という結果が表れた。

また、悩みの解決法としては、一人で考え解決している学生は、高校生で53%、大学生47%である。次に相談相手として友人が大きな位置を占めている（高校生35%、大学生32%）。高校、大学生において悩みの内容は、学校の成績や将来（進学、就職関係）の決定といった種類のものが中心であることを考えれば、友人というものが単なる仲の良い仲間という域を越えて、普段の生活から将来の生き方にまで影響を与える極めて重要な存在となっている。

対人関係での難しさにしても、友人関係、異性関係合わせて、高校、大学生共に51%が難しい、あるいは、悩みを感じている。

青年期は、友人関係が最も重要な意味をもつ段階である。親しい友人と自分を比較して劣等感に陥ったり、激しく喧嘩したり、他の新しい友人が出来たため、かつての友人と別れたりもする。また反対に全然友人がつかれない、友人がいないということで悩む学生もいる。

学生相談室への来談者のうち、年々増えているのは、友人関係、対人関係の問題である。

青年は、迷い、悩みをもつのは自然の姿である。しかし、迷い、悩むと同時に青年らしい強い好奇心や意欲がなければならぬ。相談室に来る学生の多くは、そうした意欲に欠けている。来談者自身は、意欲があるつもりでいるが、それは漠然とした憧れにすぎない。また、その実現に必要な努力する根気や忍耐がないように思われる。中学、高校時代に悩むべきことを悩まずにいたり、親が悩ませないように何らかの手助けをしたため（過保護）に、大学生になっても自分で解決しようとせず、依存型が多いのではなかろうか。

悩むことによって人間は成長し、教養を得るのである。高校時代の勉強本位の生活で自我の発達や社会性

を培うことに欠けている学生が増えている現在では、これまでの生き方を見直し、再出発していくために、1, 2年の回り道があってもよいのではなかろうか。

人間、他人の敷いた^{ひと}レールに乗っかるのではなく、人との出会い、人との語らいを大切に、自分を見

つめ、事物を見、人をも見、そして社会を見、自然の美しさに感動しながら螺旋状に成長し、自分で目標へのレールを敷いてほしいものである。

保健管理センター講師 高尾 テルノ

- ▶ 次号の保健管理センターだよりは、山本郁子栄養士による「食塩と健康について」を掲載します。

◎退庁、退室の際には、電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、火災の予防に心がけましょう!!

◎電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

職 員 消 息

《改 姓》

教育学部附属幼稚園

教 諭 野畑 美恵 旧姓 中島

《新 任 者》

学 生 部

文部事務官 向 雅己

教育学部

教 授 屋敷 平州

附属図書館

事務補佐員 石黒世志子

《住所変更》

人文学部

助 教 授 鈴木 敏昭

教育学部

助 教 授 宗 孝文

助 教 授 渡 辺 信

附属幼稚園教諭 野畑 美恵

理 学 部

助 手 酒 井 英 男

附属図書館

事務補佐員 高瀬久美子

《住所表示変更》**教育学部**

教 授 相 馬 恒 雄

" 田 中 晋

主 要 行 事**本 部**

- 6月1日 昭和57年度特殊教育就学奨励費交付金事務
担当者会議（於日本私学振興財団）
- 2日 富山大学構内交通対策委員会
- 3日 昭和57年度中部地区人事担当課長会議（於
名古屋合同庁舎）
- 8日 会計係長会議
第1回学寮補導委員会
- 9～10日 昭和57年度国立大学施設担当部課長会議
（於東京農林年金会館）
- 10日 第2回学園ニュース編集委員会
- 11日 第3回事務協議会
- 15日 第2回入学試験管理委員会
第2回入学者選抜方法研究委員会
昭和57年度中部地区学生補導厚生研究会第
26回東海・北陸地区厚生補導職員研修会運営
委員会（於金沢大学）
- 15～16日 国立学校及び所轄機関等庶務部課長会議
（於一橋講堂）

17日 第1回文化部会

18日 第2回大学院委員会
第4回評議会21～29日 北陸地区国立学校事務電算化要員研修（於
金沢大学辰口共同研修センター）

22日 第3回補導協議会

22～23日 国立大学協会第70回総会（於国立教育会館）

24日 国立大学長会議（於国立教育会館）

25日 富山大学構内交通対策委員会
富山大学入学者選抜健康診断判定基準専門
委員会第22回国立短期大学協会定期総会（於東海
大学校友会館）第37回国立大学協会事務連絡会議（於国立
教育会館）第32回北陸三県大学学生交歓芸術祭運営委
員会（於富山大学）26日 学生会館暗室使用説明会
第2回学寮補導委員会30日 第1回施設整備委員会
将来計画委員会

人文学部

24日 教務委員会教職科目専門委員会

- 6月2日 学部教務委員会
 3～4日 国立15大学人文系学部長会議（於弘前大学）
 9日 教授会
 人事教授会
 東アジア研究センター準備会
 14日 入試検討委員会
 16日 紀要委員会
 教授会検討委員会
 23日 4年次生の健康診断
 教授会
 人事教授会
 30日 人事教授会
 東アジア研究センター準備会
 教官懇談会
 公開講座関係教官・事務系打ち合わせ会

教育学部

- 6月2日 カリキュラム検討委員会
 学部教務委員会
 教授会
 3日 附属幼稚園教育研究協議会
 3～4日 春季全国国立大学教育学部長会議
 4～5日 日本教育大学協会第二部会美術部門研究協議会（於黒部荘）
 7日 教育実践研究指導センター人事検討委員会
 ・設立委員会合同会議
 8～9日 日本教育大学協会第二部会理事会・評議員会（於東京学芸大学）
 9日 人事教授会
 10日 日本教育大学協会代議員会（於竹橋会館）
 11日 附属中学校教育研究協議会
 16日 学部教務委員会
 教授会
 人事教授会
 内科検診
 18～19日 全国国公立幼稚園長会総会・研究大会（於富山県民会館）
 21日 将来計画委員会
 23日 紀要編集委員会

経済学部

- 6月1日 各種委員選考委員会
 2日 拡大教務委員会
 7日 学部職業補導委員会
 9日 学部教務委員会
 人事教授会
 教授会
 21日 学部施設整備委員会
 財務委員会
 23日 学部教務委員会
 拡大教務委員会
 人事教授会
 教授会
 25日 学部図書委員会
 26日 論集委員会
 日海研運営委員会
 28日 助手室業務運営委員会
 30日 日海研運営委員会

理学部

- 6月1日 学科主任会議
 2日 教務・職業補導合同委員会
 23日 4年次生の健康診断
 教授会
 人事教授会

工学部

- 6月1日 学科主任会議
 2日 教授会
 4～8日 第24回仰嶽寮祭
 5日 機種選定委員会
 9日 博士課程委員会
 16日 学部教務委員会
 18日 第20回国立大学工学系事務協議会（於新潟大学工学部）

- 21日 教職員厚生事業運営委員会及び温交会役員
会の合同会議
- 23日 博士課程委員会
- 25日 緊急教授会
- 28日 学部教務委員会
- 29日 北陸信越工業教育協会総会（於新潟大学工
学部）
- 30日 定期健康診断

教 養 部

- 6月2日 教務委員会
教員選考に関する内規暫定措置検討委員会
- 9日 教授会
教授のみの教授会
- 16日 教員選考に関する内規暫定措置検討委員会
- 23日 教員選考に関する内規暫定措置検討委員会
予算委員会
- 30日 教授会

附属図書館

- 6月9日 係長事務打ち合わせ
- 16日 定期健康診断
- 16～18日 国立大学図書館協議会総会及び理事会（於
信州大学）
- 29日 商議会

トリチウム科学センター

- 6月21日 トリチウム科学センター運営委員会専門委
員会

保健管理センター

- 6月24日 レントゲン直接撮影
- 25日 入学者選抜健康診断判定基準専門委員会

経営短期大学部

- 6月9日 第2回奨学生選考委員会
- 10日 第6回教授会
- 24日 昭和57年度国立短期大学協会第2部会（於
国立教育会館）
- 25日 第22回国立短期大学協会定期総会（於東海
大学校友会館）





編 集	富山大学庶務部庶務課 富山市五福3190
印刷所	あけぼの企画 富山市曙町9-1 電話(33)3356(代)